別紙

令和８年度校区まちづくり交付金　交付決定助言書
【高安小中学校区まちづくり協議会】

〔交付決定にかかる条件〕

※下記に記載の〔交付決定にかかる条件〕については、年度内の活動の中で実践や実施に向けた検討を進めてください。その実績や検討状況については、実績報告書に記載いただき、ご報告ください。

〇チャレンジメニュー①：１－１「自助」の取り組みの定着・促進
〇チャレンジメニュー②：1-②子どもの参画
　他の防災事業との関連を図っていく手法についてもご検討ください。

〇チャレンジメニュー④：2-①対話の場づくり
　当日の参加者だけでなく、HP で広く情報を募集する手法についてもご検討ください。

〇チャレンジメニュー⑤：2-③団体に属さない人の参画促進
・組織化に向けたより具体的な手法についてご検討ください。
・ハードルの低いお手伝いから参加できるような段階的な関わり方の手法についてもご検討ください。

〇チャレンジメニュー⑥：3-②ICT 人材の発掘・育成
　ICT リテラシーの向上に向けた取り組みについてもご検討ください。

〇チャレンジメニュー⑦：3-③若い担い手確保・参画促進
〇チャレンジメニュー⑧：3-④新たな担い手の確保・参画促進
　どのような組織づくりを目指しているのかを示した上で、段階的な組織づくりの手法と１年ごとの具体的な目標を設定することについてご検討ください。

〇チャレンジメニュー⑪：4-④自主財源確保の仕組み導入
　協賛金や自主財源の確保について、その効果検証の実施についてご検討ください。

〇取り組み①：ふれあい祭り
　多様な世代が集まる機会を活かし、準備段階だけでなく当日においても、新たな担い手の獲得につながる取り組みについてご検討ください。

〇取り組み④：憩いの広場
　憩いの広場を作る取り組みは非常に良いと思いますが、どのように意見を集約していくのか、その意見を集約する場こそが重要であると考えます。広く意見の集約ができるような工夫についてご検討ください。

別紙

〇取り組み⑤：コミュニティナースの組織化と運営
　既存の団体との協力体制を構築しながら取り組む手法についてご検討ください。

〇取り組み⑥：子ども見守り活動
　見守り活動は大事な取り組みだと思いますので、その効果検証の実施についてご検討ください。

〇取り組み⑦：自主防災訓練
〇取り組み⑧：親子防災デイキャンプ
〇取り組み⑨：消防訓練
　他の防災事業との関連を図る手法についてもご検討ください。

〇取り組み⑩：高安の里エコミュージアム活動
　地域の魅力を知り発信できる良い機会だと思いますので、子供目線と大人目線では魅力が異なることも盛り込んだ魅力発信の取り組みについてご検討ください。

〇取り組み⑩：高安の里エコミュージアム活動
〇取り組み⑪：生物多様性センターづくり
〇取り組み⑫：里づくりベースイベント
　上記３つの取り組みについて、連携する手法についてご検討ください。

〇取り組み⑮：イベント広報活動
　広報はどの媒体でどれくらいの効果があるのかが重要であると思いますので、各イベントで、どの広報をみて参加したのかについてのアンケートの実施についてご検討ください。

〔今後の活動にかかる助言〕
※下記に記載の〔今後の活動にかかる助言〕については、まち協活動でご活用ください。こちらの項目については、実績報告の際の実施状況等のご報告は不要です。

・取り組み⑬：山ねきマルシェ
　広く高安地区の魅力を発信できる取り組みだと思います。他の地域と協力するとより面白い活動になると思いますので、ご検討ください。

　〇取り組み⑯：まちづくり活性化部会の組織化
　月に２回の開催ということで、報告をしっかり実施されているかと思いますので、お互いの部会で協力体制をとりながら活動を進めてください。

別紙

〇全体を通して

・申請内容を拝見し、高安校区が持つ自然・歴史・文化資源を活かしながら、防災、子育て、多世代交流、担い手育成など、多角的な視点でまちづくりに取り組まれていることがよく伝わってきました。特に、エコミュージアム活動、生物多様性センターづくり、山ねきマルシェなど、高安ならではの地域資源を活用した事業は、他校区にはない大きな強みであると感じました。
そのうえで、今後さらに事業効果を高めるために、いくつか検討いただきたい点があります。
まず、非常に多くの事業が計画されている一方で、それぞれの事業の優先順位や相互のつながりがやや見えにくい印象を受けました。個々の事業を単独で進めるのではなく、「どの事業が入口となり、どの事業が担い手育成につながるのか」という流れを整理することで、全体の戦略がより明確になるのではないでしょうか。
例えば、ふれあい祭りや山ねきマルシェを地域との接点づくりの入口とし、そこからエコミュージアム活動や防災活動、各部会への参加につなげていくなど、参加から参画への導線を設計することが重要だと思います。

・チャレンジメニューでは若い担い手の確保や ICT 人材育成が掲げられており、次世代育成への意識が見られる点は非常に評価できます。一方で、大学生・高校生・地域住民がどのような役割を担い、どのようなステップで継続的な参画につながるのかについて、より具体的なロードマップがあると、取り組みの実効性が高まると考えます。

・7 つの部会を設置する構想は意欲的ですが、部会数が多いため、初期段階ではテーマを絞り、特に地域ニーズが高い領域から重点的に進める方法も有効かもしれません。すべてを同時並行で進めるよりも、成果が見えやすい領域から着手することで、参加者の手応えや成功体験が生まれ、他部会の活性化にもつながると思われます。

・高安地域の魅力は、都市近郊にありながら豊かな自然や里山文化が残っている点にあります。その強みを単なるイベント開催にとどめず、「暮らし」「学び」「防災」「移住・定住」と結びつけていくことで、より持続的な地域価値の創出につながるのではないでしょうか。
今後は、年間計画に加えて、3 年後・5 年後に高安をどのような地域にしたいのかという中長期ビジョンを整理し、各事業の位置づけを可視化することで、より戦略的なまちづくりにつながることを期待しています。

・事業によっては親和性の高い取り組みも多いので、連携をとった方が効果的だと思います。

・まちづくりの担い手へと育っていってもらうきっかけとしては、各回の参加者が、別なイベントのリピーターとなってくれるように広報を効果的に実施してください。

・組織づくりや居場所づくりは、短期間の目標を立てて具体的に取り組んでください。